

社会学研究科学位論文審査基準

順番	項目	内容	修士論文	博士論文
1	研究テーマ及び課題の妥当性と適切性	論文は在学期間に行う研究の成果を報告するものであり、その研究のテーマ及び課題は当該専攻分野の研究動向や研究の対象とする社会の状況に照らして妥当で適切なものでなければならない。	○	○
2	先行研究のレビュー	研究テーマ及び課題は、当該専攻の先行研究のレビューを踏まえて、当該分野の研究動向の中に位置づけ、その意義を明らかにしなければならない。	○	○
3	資料の収集	研究において、分析の対象となる資料(古典研究及び理論研究の場合は文献)が当該専攻分野で妥当で適切とされる方法で収集されていないといけない。	○	○
4	資料の分析	研究において、収集した資料(古典研究及び理論研究の場合は文献)が当該専攻分野において妥当で適切とされる方法で分析(古典研究及び理論研究の場合は批判的読解)されていないといけない。	○	○
5	結論と考察	研究の成果は結論として明確に陳述されていないといけない。のみならず、その結論は収集した資料の分析の結果に裏付けられたものでなければならない。また、当該専攻分野や研究対象とする社会に対する、その結論のインプリケーションが適切に考察されていないといけない。	○	○
6	文章及び構成の明晰性と論理性	論文の構成は当該専攻分野における学術論文の標準的な構成に則ったものでなければならない。また、文章は学術的な日本語として明晰でかつ論理的なものでなければならない。	○	○
7	体裁	論文の体裁は、『履修要項』に規定する執筆要項に従ったものでなければならない。のみならず、解説註、引用註、引用参考文献、図表などが、当該専攻分野における学術論文の標準的な挙示の仕方にも則ったものでなければならない。	○	○
8	斬新性	論文で報告する研究成果は、当該専攻の当該研究分野についての知見や知識に何らかの「新しさ」を付け加えるようなものを含んでいないといけない。	×	○
9	統一性	『履修要項』には論文の長さについての規定はないが、書籍の長さを概ねの標準とし、その場合、全体としてひとつの研究テーマ及び課題を追求するものでなければならない。	×	○